

Town of Vail ヒアリング

日時：03/04

先方対応者：

Mayor: Dave Chapin

Town Manager: Scott Robson,

Assistant Town Manager: Patty McKenny,

Economic Development Director: Mia Vlaar,

Community Development Director: Matt Gennett, AICP

Environment Sustainability Director: Kristen Bertuglia, LEED AP

中村壯一氏（Interpacific Network Corporation 社長）

〈町の基本情報〉

- 人口 5,600 人程度
- 1966 年に町ができる（スキー場 1962 年の 4 年後）
- 標高約 2,484m, 約 12 km²、町の周辺の多くは公有地・国有地
- 従業員、フルタイム 5,000 人程度、パートタイム 5,000 人程度
- 1.4%の宿泊税、4%のリフト券税（1 日券当日券のみに課税）
 - 1.4%の宿泊税は夏季のマーケティングに、4%のリフト券税は無料トランジットシステムに充当
- 町としてのコアコンセプトは、以下の 4 つであり、これらの連動を考えている。
 - Community
 - Experience
 - Economy
 - Sustainability

〈Sustainability〉

- スキー産業にとってサステナビリティは最重要課題である。町のなかでの優先順位も一番上位と町長自身、そして町でもそのように考えている。
- Vail Resort は 2017, 2018 年には持続可能なマウンテンリゾート (Certified Sustainable Destination) (※) 100 選に選ばれた。
 - (※) 国連が主催。認定制であり全 44 項目(44criteria)をクリアする必要がある。
 - そのクライテリアは、Environmental Stewardship, Year-round economic development, Cultural heritage protection, Low impact transportation, Energy efficiency, Waste reduction, Public health and safety, Workforce housing, Climate change mitigation and adaptation, Sustainability education 等の項目を含む
 - →環境側面のみというような狭義のサステナビリティではなく地域としての社会・経済を含めたサステナビリティを満たす必要がある。
 - 参 考 : <https://www.walkingmountains.org/sustainability-hub/mountain-ideal->

[sustainable-destination/vail-sustainable-destination/](#)

- サステナビリティに関するコアコンセプトは以下の5つ。この5つのコアコンセプトに基づき政策を検討している。
 - Innovation
 - Diversity
 - Education
 - Authenticity
 - Leadership
- Sustainability Program には5つのゴールを設定している（2009年に設定）。
 - Waste Diversion and Recycling
 - 2009年時点と比較して2019年までに25%、2025年までに50%のリサイクル・リユース率、そして長期的には廃棄物ゼロにすること（ゴール1, 2, 3）。
 - 2020年時点で25%削減の目標は達成
 - そのために、コンポスト設置等の具体的取組を行っている。
 - Energy and Climate
 - 来年(2021年)までに町のエネルギーの70%を再生可能エネルギーとする（ゴール4）。
 - Ecosystem Health 生態系保全（ゴール5）
 - Protect the Gore : Gore creek の保全・再生には5年間で約8億円の予算をつけている。

〈Economy, Tourism Project〉

- 町とスキー場は別ものであるがゲストからはそれがわからないように連携をしている。町ができて以来50年間、こうした関係を続けてきている。
- VRとは強いパートナーシップを組んでいる。
 - コアコンセプトの共有を行い、ともに連携をして長期戦略をとっている。
 - 町はグリーンシーズンの活性化に力を置き、VRはウインターシーズンに。
 - 町が出資し（年間約4億円）、年中イベントを開催して（ほぼ毎月開催）活性化を図っている（特にショルダー期）。こうした取り組みの財源は宿泊税のうち1.4%。
 - 町は「Guest Experience」をVRは「Guest Experience」を考えている。またそれぞれを共有・すり合わせを行い、棲み分け・連動するように調整している。
 - Guest Experience を高めるために、町ではイベントの開催の他、職員の教育（講習を受講させる）、行政サービスの充実、交通、パーキング等のロジスティクスに取り組む。
 - 顧客容量のコントロールについてもVRと連携しており、19,900人を超える客がスキー場に入った時にはVRから町に連絡が来るようになっており、そうすると町からの警察も含めて職員がサポートに出る（混雑緩和等のため）。
- 週に1回のミーティング（町のスタッフや町長も含めて参加）（※）の場で行っている。
 - （※）この場で、ビジョンの共有、各セクションでの状況共有を行い同じビジョ

ンに向かうよう、各取り組みが連動するよう調整。また新たなテーマについても勉強。

- タウン内で約 19,000 ベット、12,000 m²に値する会議スペースのほか、歩行者優先のまちづくり、無料バスシステムの運行を行っている。病院も。
- デンバー空港の他、Eagle County Regional Airport（ベイル町から約 1 時間半）があり、旅行者のアクセスは良い。
- 山は林野庁の土地、タウンは町の土地。
- ベイルエコノミックカOUNシル（様々なステークホルダーが参加する委員会）の場があり研究や取組施策などを協議している。

〈Public-Private Partnership〉 公共と民間との共生について、再開発の計画

- 町の土地を囲むように民間施設が立っている。
- 町として重点的に連携をとっているのは VR、病院。
- 駐車場のエリアを再開発予定
- 活気を取り戻す、コミュニケーションの場を創出することを意識
- 町の庁舎も新規に。町の機能の統廃合についても検討している。
- 再開発においても環境配慮を意識
- 再開発には約 45 億円弱を初期投資費として予定し、2030 年の完成を目標としている。
- パートナーシップの好事例
 - 高速道路の向かい側に約 160 台の立体駐車場をつくっている。これを機に小学校も改築し、小学校の屋上を児童の送り迎えスペースとした。
 - 駐車場の設立費用は、学校区から 1.8 億円程度、VR から 4.5 億円程度、町から 8 億円弱を支出
 - 従業員宿舎を小学校の隣に設立。4.5 億円（プロジェクト全体の 20%）で土地を購入。病院の協力も得ている。

〈Colorado Association of Ski Towns〉 <https://coskitowns.com/>

- コロラド州のスキータウンの連盟
- epic pass に参画している町、IKON PASS に参画している町、それぞれあるが、それでは対立するのではなく、各スキータウンが抱えている課題を共有し行動をとっていく
 - 例えば、環境問題、交通問題、住居の問題等、こうした各タウンが共通して持つ課題について、単体ではなくまとまりとして（大きな声として）議会等にも働きかける。
- 毎回の集まりにはだいたい 20~30 くらいの町が集まる。
- AirBnB 等も各スキータウンで問題となっており、そうした問題についても共有。

〈質問〉

- 課題を出すプロセスは？
 - コミュニティサーベイ（住民調査）を 2 年に 1 回実施

- カウンシルミーティングは市民も参加し意見を出し合うもので2週間に1回実施
 - カウンシルリトリートは市民は入らずに主要メンバーで話し合う。ここでは、町の4つのコンセプトに基づいてトピックを出して意見を出し合う。
 - 議会のなかにはボードとコミッションがあり、ここには一般の方々が参加できる。ここで一般の方々の意見を吸い上げている。
 - また、議会の情報はライブキャストで公開しており、誰でも情報を得られるようにしている。
 - ライブキャストは町のwebサイトから見れる：
<https://www.vailgov.com/#892236-watch-vail-town-council-live>
 - 意識していることとしては、“変化にいつでも対応できるようにすること”
- 宿泊税、及びその用途について
 - コロラド州の tax, 郡の tax, eco-transportation の tax, ベイル町の宿泊税(1.4%)の合計で9.8%
 - ベイル町で使えるのは1.4%分（年間で約3.5million）であり、この用途はすべてマーケティングに使っている。マーケティングも特に夏のマーケティングに充てている（冬はVRが実施）。
 - 用途は住民投票によって決めている。

メモ

- ベイル町は人口約5,500人、それに対して年間約2.8億人、繁忙期には1日35,000人のゲストが訪れる。
- 1962年にスキー場、1966年に町ができて以来、住民とゲストのバランスを図るために様々取り組んできた。Sustainable Destination に選ばれるためにも長い期間を要している。下記のリンクにその取り組みの様子が記載されている。
- <https://www.walkingmountains.org/sustainability-hub/mountain-ideal-sustainable-destination/vail-sustainable-destination/>